

株式会社ジェイコム東京北

放送番組審議会 議事録

平成29年度(2017年度)株式会社ジェイコム東京北 放送番組審議会は、2018年3月19日(月)ジェイコム東京北局にて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席	ご欠席
尾花 秀雄 様	大前 孝太郎 様
越野 充博 様	児浦 良裕 様
雲出 直子 様	
杉山 徳卓 様	
吉原 隆平 様	

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：尾花会長

■ ジェイコム東京北の現在

委員

全体的な印象として、双方向性が置き去りにされていると感じる。大きな組織になり整ってきているが、地域の特性や生の声を番組に反映する昔ながらの CATV の良さも失われている。

平昌五輪の際は、フリースタイルスキー女子ハーフパイプに出場した鈴木沙織選手への寄せ書きが北とびあに展示されているだけで、SNS での拡散もなされていない。そうした面も J:COM がフォローできるのではないか。東京五輪に向けて区の取り組みをより大きく周知できるように関わってほしい。報道という形で盛り上げられるのは J:COM だけなので、リリースを待つだけでなく、情報を引き出すような双方向の連携を期待する。大きな資本によりダイナミックな取り組みが可能になった分、細かな部分に目を配って、中身の充実を図ってほしい。

事業者

地域と連携する施策は課題として取り組んでいく。特別番組に関しては毎月精査しており、予算と擦り合せて可否を決定している。限られたリソースの中だが、地域にとって意義がある施策を取り上げていきたい。

■ 過去映像のアーカイブ化

委員

「デイリーニュース」の目的のひとつにアーカイブ化があるが、局に保管されている過去映像の二次利用や地域への開放を進めてはどうか。地域の有志が戦前・戦後の 16mm や 8mm 映像を集めるという試みがあり、動画で残す意義が再認識された。権利がクリアになるのであれば、J:COM の保管する過去映像を北区の図書館のサーバーに移行することもできる。瞬間風速ではなく、長いスパンで考えると非常に大きな地域貢献となるだろう。

事業者

すでに始めている事例として「デイリーニュース」はアプリ「ど・ろーかる」で 1 週間分のアーカイブを視聴可能としている。全国 43 エリアで放送しているため、年単位の格納となるとサーバー容量などの制約があり難しいが、今後はより古い映像へのアクセス方法も検討していきたい。

■ 他の事業者との連携に関して

委員

自社以外との相互協力は得るものが大きい。例えば、「わんぱく相撲」を一定期間 青年会議所が自由に使えるようにすることで、J:COM を大々的に PR してもらうことも可能になる。

また、現実問題として資源が限られている中、専門チャンネルとの連携は効果的だと思う。

ゴルフネットワークの番組に赤羽ゴルフ倶楽部を取り上げてもらい、北区のコミュニティチャンネルに番組出演者が番宣を兼ねて出演して相互誘導を行うこともできる。

テレビ朝日には架空の東王子署を舞台にした「おかしな刑事」というドラマがある。専門チャンネルでも放送があるので、主演の伊藤四郎さん、羽田美智子さんから北区のロケ地に絡んだ番宣コメントをもらうなど工夫次第で広がりが出せる。もっと北区関連のコンテンツへの嗅覚を持ち、J:COM で紹介していくと地域との相互効果が生まれるはず。従来の考え方で内容の充実を図っても限界がある。

■ 発信の場としての CATV

委員

組織として各レイヤーが安定してきており、この方向性でしっかりと地域の情報が出されていくと良い。

ただ、若い世代にとって CATV は“レガシーメディア”となりつつある。TV サービスへの加入者数は増加しているので、若い層への施策として、是非 予算を投じて参加型・双方向性のコンテンツを立ち上げてほしい。

インターネットの世界では、オープンコンテンツや API の開放が一般的になってきている。そうした概念を CATV も取り入れていかないと、ただ発信するだけでは一方通行になってしまう。

地域の人に参加でき、メディアを活用できる場として、インターネット以外にも CATV があると認識させること

が重要。映像コンテンツや教育系のセミナーの復活を望む。次世代の子供たちを対象に、CATV を使った新たなビジネスモデルのコンテンツや開発イベントを開催してもらえたら嬉しい。

事業者

「中学生東京駅伝」は7時間を超える生中継となったが、1,200件を超えるコメント投稿があった。解説の発言に対する投稿があるなど、ある意味で双方向性の取り組みとなった。アプリ「ど・ろーかる」でも視聴者が映像を投稿できるような機能の拡張を検討している。権利処理など課題はあるが、双方向性のコンテンツも充実させていきたい。

委員

若い世代には、テレビを見ながらコメントをインターネットの掲示板に書き込む“実況”という視聴方法が浸透している。戦略的にCATVが率先して仕掛けていくと面白いのではないか。

委員

エリアによるセグメントをなくすためにも高校野球などの生中継番組はYouTube配信を検討してほしい。双方向性の深掘りにつながると思う。

■アプリ「ど・ろーかる」について

委員

「ど・ろーかる」の活用法として、地域で発信したい人を集めていくと良い。CATVの新たな事業に組み入れて展開していくと、周囲を巻き込む力を持った発信者を取り込むことにもつながる。

委員

ターゲットの明確化が重要。ネットなどの配信は若い世代が中心で、年齢層が高い人たちには場違いに感じてしまう。CATVの場合は年齢層が高くて馴染む媒体なので、そうした需要は高まっていると思う。

「ど・ろーかる」はユーザーインターフェースが若干使用しにくいので、改善の余地はあると思う。より地域に根差した取り組みを期待する。

■政治との関わりについて

委員

北区の定例区議会は放送されているが、全体的なバランスとして政治の情報が少ないと感じる。

去年は青年会議所として都議会議員選挙の公開討論会を主催したが、ニュース取材のみで、番組として細かい様子を伝えて頂くことはできなかった。マスメディアの重要な役割は、民主主義の健全な判定への貢献だと思う。地域の民主主義を支えるのはJ:COMなので、選挙前に討論会を主催するなどの取り組みを

検討してほしい。

事業者

狭域のメディアとして都議会を扱わないという方針を定めているので、番組化は控えさせて頂いた。

事業者

区長選の公開討論会は可能な範囲内で放送してきた。立候補者全員の参加が必要など放送の条件が厳しいが、公平性・中立性が担保できる限りお伝えするよう努めている。

■ 地域スポーツへの取り組み

委員

地域スポーツの深掘りに期待したい。ゴルフは人気が高く、扱う番組も多いが、プロのプレーを見てもレベルが高すぎて楽しめない。BS ジャパンの「ゴルフ侍、見参！」は、トップ・アマチュアがプロを自分のホームコースに招いてマッチプレーを行う番組だが、非常に見応えがある。北区にも赤羽ゴルフクラブがあるので、アマチュア同士の対決を番組にしたら面白いと思う。

事業者

CATV の地域コンテンツの中でスポーツは強みだと感じている。競技に関わらず、地域で頑張っている子供たちの姿を特番や生中継で取り上げていきたい。

委員

NHK に「奇跡のレッスン～世界最強のコーチと子どもたち～」という世界有数の指導者が子どもたちに 1 週間の特別指導を行い、激的に上達していく様子を見せていく番組がある。北区であれば、成立ゼブラのような総合型スポーツクラブでレッスンを行う番組が作れる。指導者に対して指導していく番組も面白いと思う。

■ 編成方針に関して

委員

飲食店を紹介する番組がなくなってしまったので、是非 復活させてもらいたい。

事業者

「お店しま SHOW」は一旦 休止となっているが、エリアでの認知度の高い番組でもあり、新たにスポンサーを募り番組の再開に向けて動いている。

委員

商工会議所では観光協会の全面バックアップを受け、「北区時間」の第 2 弾を発刊する予定。紙媒体だが一部 動画で見られる施策もあるので、取材のヒントにして頂けたら嬉しい。本の内容をなぞる番組があれば、商工会議所の WEB や観光協会との連携もできる。街紹介から文化に踏み込んだ内容まで盛りだくさんなので検討してもらいたい。

以上